

充実した沢はじめ

大峰山脈 白川又川本谷(奥剣又谷)

藤岡

【日時】 2009年5月3日(日)～5日(火)

【メンバー】L藤岡、田邊(一)、大野、野村

GWは雪のあるところに、と思っていたが3月の戸隠があまりに春の様相で、田邊さんの今年
は沢だ！という声につられて早々に沢はじめをしてみました。

事前の予想から5/2午後からは渋滞緩和されると読んでいたのだが、まわりのみんなも読んで
いたのか13:00に町田を出発したのに愛知県に入れたのはなんと18:30頃。現地に着いたのは
12時間後の日付が変わってしばらくしてからだった。

5/3(日) 晴れ

きちんと入山祝いをしたので早起きなどできるはずもなく、結局9:00出発。林道からモノレール
軌道をたどって急斜面を登り、稜線についたら立派な看板のある林道が走っていた・・・ ゲート
からすぐの西山観音へ分岐する林道を上がった方が楽に来れそう。大梅山へと向う林道から
西向きに分かれる林道を歩き、地形図に900mとあるあたりの尾根から西方向へ続いている踏
み跡へ入る。やや南よりの急斜面を降りて行く途中立派な小屋があり、さらに南方向への踏み
跡をたどると最終的に不明瞭になって沢に出てしまった。2006年の記録では本流に沿ってフ
ジノコまで踏み跡が続いていたらしいが見つけれなかった。沢はすぐに滝となり20mほどの
2段チムニー滝を懸垂していきなり腰まで水に浸かる。もうひとつ小滝をクライムダウンするとよ
やく本流に出ることができた。本流はいきなり大きなプールから始まっており、ウェットを着込
んでさっそく泳ぎか？と思ったがそのまま左岸をうまく巻くことができた。右岸から支流が入り、予
定よりかなり下流に出てしまったことが解る。大野さんが蛇と戯れた後は二回ほど淵を泳ぐ。ウ
ェットを着ていてもさすがに5月の沢の水は刺すように冷たい。中ノ又谷の出合の淵を高巻いた
ころにはもうすっかりいい時間になっていた。火吹谷手前の8m滝は登れず左のルンゼ状岩場
をあやしげな細い灌木で支点を取りながら田邊さんがロープを引く。最後はうすかぶりの土手
を空荷で這い上がる。火吹谷から天場を探しながら歩いてゆくと、左岸の川原に良い場所が見
つかった。薪も豊富で今年初めての焚き火を盛大に楽しめた。やっぱり沢は良い！！



本流は開けて明るい雰囲気



いきなり泳ぐ泳ぐ

5/4(月) くもり

天場を出発すると側壁が急に立ち上がりゴルジュが始まった。プールを持つ4m滝を右岸から高巻いた後は、淵を2箇所連続して泳ぐ。その先は100mほどの間 左岸の壁のいたるところから水が落ちている不思議な光景が続く。15m滝は左壁をへつって泡立つ水面に飛び込み滝の右壁を登る。その上には可愛そうに若いカモシカの死体が流れにひっかかっていた。

ところで今回田邊さん以外の3名はアクアステルスを履いて来たのだが、沢は結構滑った苔が生えており、油断しているとつると来る。

次の淵は左岸を巻けたが、その先は側壁が斜めに傾いたゴルジュだ。もういい加減体が冷え切っているのでもこも巻いてしまいたかったが、元水泳部の野村さんは泳ぐ気満々である。ロープを引いて嬉々として泳いでいってしまった。後続はロープで引っぱってもらうが、長い淵を首まで浸かって泳ぐので、寒い寒い。。 巨大なCS滝を巻き上がると今度は元気なカモシカくん



ここから飛び込んで右壁を登る



斜めのゴルジュを泳ぐ野村さん

が走って行った。水晶谷の出合で見上げると4mほどの急な土手を登ったようでその上の台地で悠々と草を食んでいる。次の18m滝を右岸のルンゼから巻き上がるが、なかなか傾斜が落ちない。田邊さんがトラバースに入るが足元が悪そうなので残り3人はさらにルンゼを登る。下からは傾斜が落ちるように見えたが結局かなり追い上げられてしまった。その後は巨大な岩の川原を歩くと、沢は開けてようやくゴルジュ帯を抜けたようだ。しばらく行くと口剣又谷出合の30m滝に到着。空中に放水していてなかなか豪快な滝だ。

口剣又谷側のガレたルンゼを登っているときに、野村さんの足元が崩れてあやうく足を挟まれるところだった。直撃は間逃れたようで、少し休むと歩くことができほっとした。巨岩帯を超えて30m滝を巻き上がると滑床に水が溜まっているのどかな場所に出た。野村さんは風呂につかるように両足を水に漬けて冷やしている。

その先は川原なのだが延々と巨岩帯が続いており、よいしょ こらしよと越えてゆく。今日中に稜線に出たいと思って



口剣又谷出合の大滝



いたが無理に上がっても稜線泊まりになるのは確実で、時間的にももう火吹谷下降はありえない。時間ははやいが1200m手前の二又に泊まることとした。

今日は雨の予報なのできっちりタープを張って焚き火を熾す。二日連続して焚き火で酒が飲めるのは嬉しい。

5/5(火) 雨

夜中の2時頃に目を覚ましたときからかなりの雨が TENT を叩いていた。予定通り4:30に起きたのだがまだまだ雨は上がらない。事前の予報では今日は低気圧が過ぎ去って曇りの予定だったが高気圧は近づいていないようだ。一旦外に出て焚き火を熾すが雨足が強いので TENT の中で朝食をとることにした。食事が終わる頃には雨は弱まり、出発時にはなんとか上がってくれた。

今日は下山しないといけないので、頑張っ て歩き始める。沢は滑滝が続くようになり、晴れていればかなり綺麗だったと思う。10m滑滝は簡単に越えて、15m滝は左壁を田邊さんがフリーで突破してロープを降ろしてくれた。その次の滑滝は30mくらいあり上部がやや立っていてフリーで行くにはやや緊張した。三ツ又状になった箇所を左に入ると階段状の滑滝が続く。次は枯れたルンゼを左に分けて水流をたどってゆくと15mの滝だ。左岸から巻いて滝をふたつ過ぎると水が少なくなった。両岸はまだ藪が濃いのでしばらくは沢型を歩き、下草がなくなったところでガレをトラバースして尾根に乗った。ところどころに鹿の糞を確認し、獣道を拾いながら倒木の続く急な斜面を登ってゆく。最後は大きな岩場を巻いて上に上がると登山道に出た。うまくピークに直接出たかったのだが、藪を避けているうちにやや北側に寄ってしまったようだ。5分で八経ヶ岳のピークに出て記念撮影をした後は風を避けてすぐに弥山へと向かった。



滑滝が続く



小雨降る中 記念撮影

雨が降り始めたが沢山のハイカーとすれ違う。ところどころにまだ雪が残っていた。鹿避けのゲートをいくつか過ぎて弥山小屋へ到着。とても綺麗なトイレがあったが、営業小屋は泊まり客専用で中に入ることはできず、ちょっとした入り口の雨避けでお湯を沸かして休憩する。

雨足が強くなってきたが、あとは登山道を下るのみ。止まると寒いので黙々と歩き続ける。登山道から大拇山へと向かう踏み跡をたどり三本楯に着いた。そこから南に向かうと大拇山なのだ



が東へ向かう踏み跡につられて東の尾根に入ってしまった。方角の間違いに気づいて先行する田邊さん、野村さんと呼び止めて地図を確認する。ふと顔を上げると100mほど下にいたはずの二人の姿が見当たらない。しばらく大野さんと探したがそこから下は急な藪となっているのであまり降りたくない感じた。笛でコールしても返事がなく、雨の中はぐれてしまっていて困ったなど思いながら斜面を登り返すと、ようやく笛の音が聞こえてきた。どうも我々が地図を見ている間にトラバースする踏み跡を見つけて南へ移動していたようだ。そこから先も東よりの尾根に乗ってしまっているのでどうするか相談したが、野村さんの最新のエアリアでは林道がかなり上まで伸びているようなので、そのまま東へ向かって降りて行くことにした。するとほどなく林道に出ることができた。途中二箇所林道が大規模に崩壊している箇所があるが、最初の崩壊場所で真下に急斜面を降りてゆくと、なんとか高巻き風につづら折れになった林道にまた出ることができた。下部の崩壊箇所は相当大規模で、寸断された箇所をトラバースするのはロープをつけても嫌な感じに見えた。その先は足の痛みにも耐えながらひたすら林道歩き。沢靴での林道歩きが苦手な私はつま先が痛くて仕方がない。最後の方は後ろ向きに歩きながらなんとか17:00前に車にたどり着いた。

GWに沢に行くのは初めてだ。いままでもトマでは西表島等 南の島には行っていたが、この時期紀伊半島で水に浸かって大丈夫かなと思いつつ行ってみたら、想像通り？水はやっぱり冷たかった。おまけに下流部は予想以上に泳ぎが多かったので、ウェットを着ていても寒くて仕方がなかった。それでも夜に焚き火を囲むと、あ～沢に泊まっているんだという実感が湧いてきて不思議に幸せな気分になる。今年は季節が早いので沢も沢山楽しめるかなと期待が膨らんでゆくような山行だった。

【行程】

5/3 林道ゲート(9:00)～本流出合 (12:40-13:00)～火吹谷BP(16:00)

5/4 BP(6:30)～水晶谷(9:20)～口剣又谷(11:10)～1190m二又BP(14:00)

5/5 BP(6:50)～1470m三ツ又(8:00)～八経ヶ岳(10:05)～弥山(10:40-11:10)～行者還岳分岐(12:45)～三本榎東側下の林道(14:40)～車(16:40)

【グレード】4級 (遡行した印象では3級上)

【地図】釈迦ヶ岳、弥山

2009年5月3日~5日
 大山峰 白川又川本谷
 (奥谷又谷)
 作図: 藤岡

